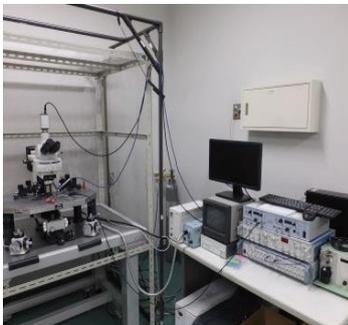


レーザー実験・ハイテク機器施設 3号館 3F

レーザーは今世紀に人類が発明した最も重要な装置の一つである。レーザー光は単色性と指向性が良く、出力が大きいという3つの特徴がある。量子力学では、光は光子とよばれる粒子（量子）の集まりであり、この光子1個がもつエネルギーがそろっていることが指向性につながり、さらにレーザー光線が非常に多くの光子を含んでいることが大きな出力につながっている。歯科や医科の分野では、エナメル質の表面処理、耐酸性付与、う蝕象牙質の除去、咬合痛の軽減、レーザーメス、網膜剥離に対する手術、レーシック（眼科）、黒子・メラニン斑の除去（皮膚科）などに広く応用されている。

現在、同施設は主に歯学部・医療保健学部の教員、院生、学部生が実験を行うためのオープンラボとして使用されている。



顕微鏡電気生理システムパッチクランプ（ニコンインステック）

細孔のあるガラス製微細電極の先端部分に特定細胞の細胞膜を顕微鏡下で貼付し、電位差や伝導性などのイオンチャンネルを調べる装置。



オープンラボ

各種器具を設置している。

- ・ 棚付き実験台
- ・ 超純水作成装置
- ・ 冷凍庫、冷蔵庫
- ・ ロッカー